

ガンダム辞典

第 15 回 統合整備計画と MSV

新しい MS に求められるのは高性能だけではない。MS 開発は生産性と運用性向上の歴史だ！

■ MS の生産性の向上

ジオンの MS は複数の企業で開発されていた。
このことが、機種間の部品の互換性を失わせ、外観やコクピットの仕様はもちろん、携行可能な兵装まで違うという状況を生み出してしまった。

問題の解決を委ねられたマ・クベは統合整備計画を実施。
部品の共有と生産ラインの簡略化、操縦系の共通化を、わずか 4ヶ月で実現する。
一年戦争中期以降、ジオンが続々と新型機を開発、実戦投入できたのは、この計画の成果だ。

■ バリエーションという考え方

高い汎用性を持つ MS だが、戦場へ投入されると、局地戦に対応した機種が必要となった。水陸両用 MS などは典型的な例だ。

そこまで特化しなくとも、改造や改修された機体、新たな戦術の要請から生まれた実験機も多数、製作されることになった。

これらの機体や、＜真紅の稲妻＞ジョニー・ライデンらエース・パイロットの使用したカスタム機などは MSV（Mobile S.U.I.T Variation）という分類で呼ばれている。

特定の機体のバリエーションを生み出す MSV は、MS の規格化という方針に合致するものだった。

■ 設計を見直された主力機たち

統合整備計画はそれまでにあった機種の再設計をもうながした。
第 2 期生産型と呼ばれる、リック・ドム II やザク II 改は、コクピットの形状や携行兵装の兼用が可能となっていた。部品の互換性が生まれたことで生産性は格段に向上した。
同様に、新規の機体もそれまでの機体との互換性を重視することになった。

■ ペズン計画

ペズン計画で開発されたガルバルディは、白兵戦を重視したギャンの発展期だが、外観はゲルググに似ている。これは、ゲルググの生産ラインを利用することが考えられたためだ。

ちなみにペズン計画は秘密裏に進められ、存在が明らかになったのが終戦後であったことから、この計画で開発された MS は MSX に分類される。

■ 第 1 世代 MS の限界

ガルバルディは高い運動性能を持っていたが、パイロットへの肉体的負荷が大きかった。このため、限界性能を引き出せず、性能は従来機程度に留まってしまった。

ガルバルディは戦後、連邦軍によって改修、ガルバルディ β として量産された。
ガルバルディ β はコクピットをリニア・シートに換装した以外、ほとんどジオンが開発した機体と変わらない。にもかかわらず、機体の運動性は 3 割も向上した！

ガルバルディは早すぎた名機ともいわれるが、一年戦争末期の段階で、従来の設計で引き出せる性能は限界に来ていたのだ。

参考資料

- ・ ボンボン 2007.3